

# 今後の取組方向について

## ○ 第1回会合における主な意見等

木造率	低層（3階建て以下）の非住宅：14%	中高層（4階建て以上）の非住宅：0.04%	内装：－
用途の例	店舗（コンビニ、飲食等）等	事務所、宿泊施設、旅客施設等	店舗、事務所、宿泊施設、旅客施設等
主な意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>観光施設・交流空間に係るノウハウを含め事例を活用できるのではないか。</li> <li>木の良さに加え木造とすることの幅広い付加価値を普及すべきではないか。             <ul style="list-style-type: none"> <li>経済的メリットの整理が必要ではないか。</li> <li>地球温暖化防止をはじめ環境への効果等も踏まえることが必要ではないか。</li> </ul> </li> </ul>		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>規模や部屋配置が似ているものについて、部材等の共通化を図ることで経済的な店舗建築が可能ではないか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>設計等の工夫による経済的な建築が可能ではないか。</li> <li>コーディネーターやデザイナーとの連携も重要。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>木目調のシート利用の例あり。</li> <li>メンテナンスについても留意。</li> </ul>

### 今後の取組方向に関する主な論点

- ✓ これまで使用していなかった国産材を利用することとした理由は何か（なぜ、国産材を利用してこなかったか。）。
- ✓ どのような価値観が共有されれば民間建築物において国産材利用（投資）が実現すると考えられるか。
- ✓ 国産材利用が促進されるためには、どのような技術的な課題が解決される必要があるか（どのような工夫が可能か。）。
- ✓ 以上に対応して、さらに検討すべき内容は何か。